

女川町の文化財

「江島の文化財」①

女川町の離島のひとつ、江島は様々な伝説が残る自然豊かな場所です。

「日詰五郎の伝説」によると、「日詰五郎は平泉の藤原氏の者で、藤原氏が源義経をかくまったことで攻め滅ぼされたため、江島に逃れてきた。無人のこの島に初めて手を加えて今日の江島とした……中略(女川町誌P900)」とあります。

藤原氏の滅亡は文治5年(1189年)のことでしたので、今から800年前の時代になります。



女川町江島



祭礼日には江島法印神楽が奉納される

久須師神社



安永時代に書かれた風土記御用書出の「久須師神社」の由緒には、この神社は藤原秀衡の五男である「日詰五郎」の御本尊を祀っていると書かれています。

江島の板碑

江島の板碑は「寛正6年(1466年)」「明応4年(1495年)」の2基

※板碑とは「石でできた塔婆」のことです。



江島の近世碑(江戸時代の石碑)

島の中には33基(調査済のもの)の近世碑があります。



日詰五郎が「金の鶏」を埋めたとされる「横根の鼻」

日詰五郎にまつわる伝説の中に

「五郎が江島に逃れてきたときに、金の鶏を宝物として持ってきたが、夜な夜な時を告げて鳴くので、危険を感じて止むを得ず「横根の鼻」を掘って埋めたら、全く鳴き止んで安心することが出来た。しばらくして掘り起こしに行ったらその辺り一帯が波に洗われて姿が無くなっていった。

惜しいことをしたと嘆いたが、これも長く安全を守るための神意であろうと、子孫に遺言して鳥を飼ってはならぬとした。」というものがああります。

金のニワトリ



町誌によれば、「それより幾十年島民は遺言を固く守って今も尚鶏を飼う者がない。」と書かれていますので今も江島には鳥を飼っている家はないのでしょうか？